

牧師室から (2022.8.28)

猛暑の8月も残すところ、あと数日である。この頃は蝉の鳴き声も勢いを失っていて、朝夕少し涼しさを感じる風が吹いているが、昼はまだ暑い。早くカレンダーをめくり、9月を迎えたい。9月からは祈祷会の再開で、皆さんと会えるのが楽しみである。

9月初めの水曜日(7日)からは、出エジプト記の学びに入る。「出エジプト記」という書名は、ギリシャ語の70人訳でつけられた題で、元々書名はなかった。元のヘブライ語の聖書では、当時の習慣に従って、出だしの「そしてこれらの名前」という言葉で、区別されていた。

出エジプトという言葉は、その名の通りにエジプトからの脱出、出発を意味する。イスラエルの人々がエジプトから出なければならない、直接的な原因は人口増加であった。ヤコブの家族は、飢饉の試練から逃れるために、ヨセフがいるエジプトに身を寄せることになるが、その時のヤコブの家族は70人であった(創世記46:27)。しかし、400年後、預言者モーセに導かれてエジプトを出る時は壮年男子だけで60万人であったと聖書に記されている(出エジプト記12:37)。それに妻子を加えると、200万人以上であったであろうという説がある。

18世紀からは、食糧生産技術や医療の革新的な発達などによって、世界人口増加が爆発的だとも言われているが、古代においての人口増加は緩やかなものであった。そのような時代にイスラエルの民の数がこんなに増えたのは、不思議ともいえるだろう。当時、民の数は防衛・戦力であり、生産力であったので、イスラエルのそのような人口増加は、エジプトにとっては看過できない重大な問題であった。

出エジプト記1章8~11節にこのように書かれている。「そのころ、ヨセフのことを知らない新しい王が出てエジプトを支配し、国民に警告した。『イスラエル人という民は、今や、我々にとってあまりに数多く、強力になりすぎた。抜かりなく取り扱い、これ以上の増加を食い止めよう。一度戦争が起これば、敵側に付いて我々と戦い、この国を取るかもしれない。』」

それで、イスラエルの人々に過酷な強制労働をさせたり、生まれてくる男児殺害の命令まで下すほど虐待するが、それでもイスラエル民の数は増していく。エジプトの圧政で苦しみ、呻いているイスラエルの民のために、神様は預言者モーセを通して、壮大な救いの業を成していく。それが出エジプト記の始まりである。

子孫の繁栄という神様の祝福が試練のきっかけとなり、そこから展開される神様の救いの業を辿って行きながら、今を生きる私たちに語ってくださる、神様のみ声を共に聴いていきたい。聖霊の御導きを祈りながら、ワクワクした気持ちで出エジプト記を開いている。

(鈴木善姫牧師)